



# 南小だより

文責  
校長  
櫻井

## 仕上げの学期へ

二学期末の終業式では、人権週間に話した「あつたか言葉」を使うことや、手伝いや運動など体を動かすことで体の内側から温かくなる生活をするように話しました。

寒中にスタートした三学期始業式では、この生活を続けることの他に、授業日が五十日前後しかない三学期は仕上げの学期であり、一日一日一時間一時間の授業を大切にすることを話しました。

「一月往ぬる二月逃げる三月去る」は私たち教職員の間でよく使われる言葉ですが、子どもたちの自立へ向けて、日々の教育活動を大切にしながら積み重ねていきたいと考えています。

本年も、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



### 健康管理にご協力を

全国的には二学期末から流行していたインフルエンザ。本校では、先日の三連休前までは何とかうまく対処できていましたが、ここに来て数名が罹患し始めました。子どもたちを守るためにも、健康なうちに次のような生活を心がけるようご協力ください。

- ・栄養と休養をきちんととること。  
(規則正しい生活とバランス良い食事)
- ・病原菌への抵抗力を高める体力作り
- ・衛生的な生活習慣

(手洗い・うがいの励行)

また、流行期には人混みへの外出を避け、具合の悪い時は無理をせず医師の診断を仰ぐなどの対応をお願いします。



### 各種表彰

昨年末には交通事故防止に関する作文コンクールで県での表彰者が二名、先日の路傍の石作品コンクールでは岩舟地区でただ一点の優良賞、理科研究でも岩舟地区代表から栃木地区代表になった研究一点、学校保健での優良校や路傍の石作品コンクールでの学校賞など学校としての受賞もありました。

本人の努力は無論のこと、協力を惜しまず児童を支えた保護者の方、指導に当たった教職員の努力など、日頃の取り組みの成果がようやく形となって現れ始めました。この流れをさらに進められるよう、よりいっそうのご協力をお願いします。

## 数字を読む

## (保護者による学校評価から)

先月号の小欄で取り上げた学校評価の分析が進んだ。評価項目は、岩舟町時代のものをそのまま踏襲し、児童・保護者・学校評議員・教職員にほぼ共通の観点で質問し回答を比較した。

前回は児童による学校評価について書いたが、今回は、保護者のそれについて触れたい。

各項目とも評価平均値が3.1〜3.6と児童同様概ねおおむね良い評価結果となった。

個々の評価者により評価傾向に偏りはあるものの、今回は、評価結果の中で4点満点中1や2といった低評価が比較的多かったものを取り上げ、対応について考えたい。

保護者の評価の中で最も低評価が多かったのは五十一軒中七軒の家庭が2とつけた「どの教職員も、子どもの生

## 校長のつぶやき

活や学習について相談したときに親切に対応していると思えますか」と「学校は、保護者・地域住民から寄せられた具体的な意見や要望を把握し、迅速に対応していると思えますか」という設問であった。

改善すべきことへは真摯に取り組むつもりだが、残念なことに記述欄に具体的な指摘が無く、困惑している。

一方、自由記述欄には「子どものトラブル発生の際すぐに問題解決に動いて下さり親子で感謝しています。一人ひとりの性格を大事に見守り接してくれる先生方がいて安心です」や「子どもの友人関係問題で相談したとき先生方が親身に対応して下さり安心して学校に送り出せた」と感謝の言葉が寄せられていたことも報告しておきたい。

昨年書いたが、価値観や考え方の多様性が顕著な現在、個人の意見の尊重と全体との調和を図ることがより大切と考えている。そのためにも学校で行われている授業参観や懇談会、各種PTA活動など広い視

野を育んだり多様な考えを知ったりする機会を充実したものにしたい。

次に低評価が見られたのは、「子どもは毎日の授業がわかりやすい、わかるまで教えてくれる」といつていますか」という設問で、五軒の家庭が2、一軒の家庭が1をつけていた。児童の同項目では一人を除き全員高評価であった。このズレはさておき、少人数の学校の良さを生かし、全体指導と個別指導のバランスをとりながら一人ひとりの力を引き上げられるようにしたい。

冒頭に書いたように概ねおおむね良い評価結果の中、あえて今回は保護者からの負の評価について取り上げ、今後の取り組み姿勢を示した。

学校の教育活動をよく知っていただき、共に手を携え、子どもたちの成長への協力を願ってやまない。

